

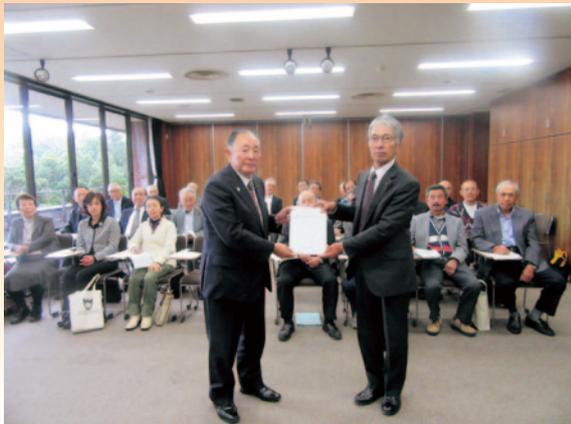


佐野ブランドキャラクターさのまる
© 佐野市

農業委員会 だより

第 13 号

平成 30 年 3 月
編集・発行
佐野市農業委員会
佐野市高砂町 1 番地
TEL 0283 (20) 3059



農地等の利用の最適化の推進に関する意見書を提出



鳥獣害対策研究部会



耕作放棄対策研究部会



経営安定対策研究部会

主な内容

- ◇会長あいさつ・視察研修報告…………… 2 P
- ◇研究部会活動報告…………… 3 P・6 P
- ◇農業委員・農地利用最適化
推進委員の紹介…………… 4 P・5 P
- ◇市への意見書の提出…………… 6 P
- ◇新しい担い手の紹介…………… 7 P
- ◇新しい農業委員会・編集後記…………… 8 P

**新しい農業委員、
農地利用最適化推進
委員が就任しました。**

※詳しくは4・5ページをご覧ください

農業委員会会長あいさつ

佐野市農業委員会 会長 杉山 忠

去る7月に農業委員の改選があり、新たな顔ぶれによる3年間の活動がスタートしました。

今期の初総会において各委員の皆様から信任をいただき、このたび会長に就任いたしました。さて、昨年の農業は天候に振り回された1年でした。

まず、日照りによる水不足によって田植えが遅れたことに始まり、待望の雨が降ったと思えば、夏の長雨と日照不足による農作物の生育被害に苦しめられました。

極めつけは矢継ぎ早に上陸した台風18号、台風21号によって、実りを迎え、収穫を待つ農作物が大きな被害に遭い、特に水稻は広い地域で倒伏していたのを記憶しています。

このように、苦労が非常に多い1年でしたが、その分収穫の喜びはより大きなものになったのではないかと思います。

さて、昨今の農業情勢は、担

い手の減少と農業者の高齢化による遊休農地の増加、鳥獣被害の拡大等の厳しい問題を抱え、農業所得や生産意欲の低下がますます懸念されます。

こうした状況下、我が国においては農業生産力の増進及び農業経営の合理化を図るため農業委員会等に関する法律の改正が行われました。

当農業委員会においても、平成29年7月から新制度での委員会運営が始まり、農業委員と農地利用最適化推進委員の2つの委員による組織に生まれ変わりました。

現在、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の解消、新規参入の促進など、農地利用の最適化の推進について、農業委員と推進委員とが密に連携を図りながら取り組んでいるところです。

これからも、皆様のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農業先進地視察研修を実施しました

佐野市農業委員会 会長職務代理者 森下 憲一

10月26日・27日、農業委員会では、視察研修を実施し、1日目は新たな技術開発を通じて宮城県農業の振興を支援する宮城県農業園芸総合研究所を視察しました。

私たちは、総面積96ヘクタールにも及ぶ広大な敷地の一画で、花を咲かせ、間もなく収穫になるうかというイチゴの栽培現場を見学することができました。

宮城県では北海道市場向けのイチゴの栽培が盛んであることから、イチゴの新品種育成、安定生産技術の開発の話を中心に、低コスト化や新規品目など、様々な話を聞くことが出来ました。

特に東日本大震災の津波被害による塩害対策がきっかけで、宮城県でのイチゴ栽培は水道水を利用した溶液栽培、高設栽培が主流になったという話は印象深いものでした。

佐野市でもイチゴの栽培が盛んであり、お互いの意見交換が

図られるなど、有意義な視察研修となりました。

2日目はせんだい農業園芸センターを視察しました。

農と触れ合う交流拠点として、多くの市民に農業と触れ合うきっかけを提供し、農業の普及に努める施設として、フラワーガーデン、キッズガーデン、市民農園などがありました。

今回の研修で学んでまいりました内容を今後の活動の糧に、佐野市の農業の発展のため微力ながら尽くしてまいりたいと思います。



栽培技術の現地説明



「箱わな」設置方法の説明

近年、有害鳥獣による農作物の被害は、山間部から人家付近にまでおよび、地域全体の深刻な問題となっています。
鳥獣害対策研究部会では、有害鳥獣の捕獲技術を学び、その推進を図るために、11月8日、田沼中央公民館において、佐野市有害鳥獣被害対策協議会主催のわな猟講習会に参加しました。

わな猟講習会
鳥獣害対策研究部会
副部会長 **相場 重雄**

栃木県の担当職員の方から講義を受け、基本知識や注意事項等を興味深く学び、その後、戸奈良町の山間部で猟友会安蘇支部の皆様から実際に箱わなを使った指導を受け、改めて鳥獣害対策の大変さを知りました。
少しでも有害鳥獣による農作物の被害を防ぐため、引き続き研修会に参加し協力していきたいと思います。

農地中間管理機構研修会
経営安定対策研究部会
副部会長 **立川 久恵**

平成26年から始まった「農地中間管理機構」の設立された背景や仕組みについて研修会を開催しました。

12月22日、佐野市農政課の職員を講師に、澁江部会長の挨拶と進行により行われました。
農業後継者の不足、耕作放棄地の増加の中、地域の担い手に効率良く農業経営を進める中間的な農地の受け皿としての農地



農地中間管理機構研修会

中間管理機構の役割や、農地利用のあり方を地域ぐるみでまとめる「人・農地プラン」との関係、要件を満たせば機構集積力金などの交付を受けられるメリットなど、実際に農地の集積・集約を推進する際に役立つ具体的な話など、多くの話を聞くことが出来ました。

貸し手と担い手との中間的な役割の中には継続した強力なサポートが重要だと感じました。
今後関係する皆様と連携を取りながら、「農地利用の最適化」に関する活動を周知し、一層の資質向上と積極的な参画に努めたいと思います。

農業青色申告のすすめ

佐野市農業青色申告会では、会員を対象に各種申告書類の書き方・提出について講習会や相談会を開催しております。
新たな会員を募集しています。申し込みは佐野市農業青色申告会事務局へ（農業委員会事務局内）
電話 0283-20-3059

お持ちの農地について

- ・高齢で耕作が続けられない…
- ・相続したが管理できない…

佐野市農業公社にご相談ください！

- ① 借り手を探すお手伝いをします。
- ② 借り手が見つかった際の契約の手続きをします。

★ **(公財)佐野市農業公社**
電話 0283-21-5489
〒327-0007 佐野市金吹町 2351

農業委員紹介

平成29年7月20日より市長の任命をうけ、新しい農業委員が活動を始めました。

佐野市の農家の代表として農地の利用の最適化の推進に取り組んでおります。

氏名
①住所地
②担当地区



島田 俊行

- ①田島町
- ②植野地区

農地法等の法令を学び、地域農業の発展に貢献いたします。



谷 正雄

- ①大古屋町
- ②植野地区

耕作放棄地の解消や地域の世話役、農家の相談役として努めてまいります。



志賀 喜一

- ①赤見町
- ②赤見地区

耕作放棄地の解消や地域農業の振興のため、努力してまいります。



小堀 和彦

- ①小中町
- ②佐野・堀米・旗川地区

担い手への農地集積や、将来の備えに、農業者年金加入推進を図ってまいります。



本島 光雄

- ①栃本町
- ②栃本・田沼北部地区

地域農業の振興と、農業後継者の育成に努め、市の農業振興に寄与してまいります。



澁江 修身

- ①小見町
- ②田沼・戸奈良・田沼南部地区

農地法に基づく指導を行い、地域の方から信頼される委員として努めてまいります。



遠藤 宏

- ①下羽田町
- ②吾妻地区

佐野市の農業振興に努力してまいります。



松本 信行

- ①上羽田町
- ②吾妻地区

農政活動と農業振興に頑張り、担い手の所得向上、農地の集積に努力してまいります。



杉山 忠

- ①富士町
- ②界・犬伏地区

農地法に基づき、農地の有効活用を図るため、農業委員会が担う責務を果たします。



島田 一男

- ①田島町
- ②界・犬伏地区

抜本的な耕作放棄地解消と、後継者が農業に夢を託して働けるよう全力を尽くします。



立川 久恵

- ①牧町
- ②常盤・水室地区

微力ではありますが、地域農業の世話役として頑張りたいと思います。



立川 勝美

- ①牧町
- ②常盤・水室地区

新規就農者の支援を通じて、耕作放棄地の解消や都市と農村の交流を目指します。



新井 勉

- ①中町
- ②葛生地区

地域の農業振興に努力し、獣害対策に取り組み、農業の躍進に寄与いたします。



相場 重雄

- ①下彦間町
- ②新合・飛駒地区

中山間地の鳥獣被害や耕作放棄地解消のために努力し、頑張りたいと思います。



森下 憲一

- ①長谷場町
- ②三好・野上地区

中山間地域の農業振興と耕作放棄地解消に向け、取り組んでまいります。



川上 美由紀

- ①岩崎町
- ②三好・野上地区

農業の活性化と、豊かな自然との共存を次世代へ繋ぐために頑張ります。

農地利用最適化

推進委員紹介

新しく組織された農地利用最適化推進委員は地元地域に密着した活動により、農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消に取り組んでおります。

氏名
①住所地区
②担当地区



細田 廣好

- ①飯田町
- ②植野地区

地域の農業振興のため、農地法に基づき、委員として努めます。



関口 光司

- ①船津川町
- ②植野地区

農地利用の集積や耕作放棄地発生防止を地域の農業者と共に進めてまいります。



尾花 收

- ①出流原町
- ②赤見地区

中山間地域の農業振興と鳥獣害対策に取り組み、努力してまいります。



若田 部明

- ①堀米町
- ②佐野・堀米・旗川地区

地域農地の集積・集約等の効率化を図るため、実態把握と支援を実践してまいります。



田中 利男

- ①多田町
- ②栃本・田沼北部地区

推進委員として、地域の農地利用の最適化に努めてまいります。



金子 一郎

- ①戸奈良町
- ②田沼・戸奈良・田沼南部地区

地域の耕作放棄地の解消、農地の集約、収入増の農業を目指したいと思っております。



新井 正行

- ①高橋町
- ②吾妻地区

地域農業の発展のため、推進委員として努力してまいります。



島田 久雄

- ①村上町
- ②吾妻地区

鳥獣害から農地を守り、地域農業の振興に微力ながら尽力いたします。



小関 昭男

- ①西浦町
- ②界・犬伏地区

耕作放棄地の解消や担い手の育成に微力ながら寄与したいと思います。



片柳 實

- ①馬門町
- ②界・犬伏地区

耕作放棄地の発生防止・解消に向け、積極的に現場活動に取り組んでまいります。



縫田 重吉

- ①牧町
- ②常盤・水室地区

中山間地域の代表として耕作放棄地の解消や鳥獣害対策に取り組みます。



中島 敏男

- ①中町
- ②葛生地区

農業委員の方々と連携を密にして、地域農業の発展のため、努力を致します。



提箸 久雄

- ①飛駒町
- ②新合・飛駒地区

中山間地域の農業振興と、耕作放棄地解消に努力してまいります。



向田 哲也

- ①山形町
- ②新合・飛駒地区

耕作放棄地や遊休農地の解消と鳥獣害対策に努力してまいります。



黒田 周太郎

- ①作原町
- ②三好・野上地区

鳥獣害対策や耕作放棄地解消に取り組み、地域農業発展に努力します。



安部 郁夫

- ①岩崎町
- ②三好・野上地区

中山間地域の耕作放棄地解消と有効活用、環境保全に努めます。

平成30年度
農地等の利用の最適化の
推進に関する意見書を提出



意見の内容を説明する杉山会長

農業委員会では、「平成30年度佐野市農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」をまとめ、10月25日に岡部市長に提出しました。

また、市長と農業委員、農地利用最適化推進委員との意見交換も行いました。

主な内容は、次のとおりです。

- 一、鳥獣害対策
- 二、耕作放棄地対策
- 三、担い手の確保と支援
- 四、農業基盤の整備対策

※詳細は佐野市ホームページでご覧になれます。

遊休農地の解消に向けて

耕作放棄対策研究部会

部長 島田 一男

農業委員会等に関する法律の改正では、農業委員に加え、農地利用最適化推進委員を新設し、農地等の利用の最適化の推進に関する事務を農業委員会の最も重要な事務として位置づけております。当部会では、その中の遊休農地の発生防止・解消への取り組みによる、農地等の利用の効率化及び高度化の促進について研究してまいりたいと考えております。

土地利用型を中心とした佐野市の農業は、兼業化が進み、担い手不足が深刻化しています。

また、中山間地域では、有害鳥獣の被害、農業従事者の高齢化や減少により、農地の遊休化が進んでおり大きな問題となっております。また、古来より農業を尊重しない社会は、生命を尊重しない社会で、早晩に行き

詰まると言われています。文化の神髄は生命を大事にする心であり、農業を大事にする国が文化国家であると識者は言います。

農業経営環境が年々変化し、農家の状況も厳しくなっている中で、これらの問題の解決のために、佐野市、農業委員会、土地改良区、農業公社等が連携し、農地の利用状況を調査し、遊休農地を農地中間管理機構や農業公社を活用し、農地の集積・集約化を進める必要があると思います。

さらに、国の施策等を取り入れ、圃場整備など農地の大型化も求められており、今後も地域の課題解決のため活動してまいりたいと考えております。



遊休農地現地調査

こんなときは手続きが必要です!

- 農地の所有権移転や貸し借りをするとき
農地を売買・交換・贈与するとき、貸し借りをするとき、許可が必要です
- 農地を転用するとき
農地を農地以外にするには、許可や届出が必要です
- 農地を相続したとき
農地を相続したときは、届出が必要です

(問い合わせ 農業委員会事務局 ☎20-3059)

※一部申請は締切日を設けています。

第9回 新しい担い手を紹介します！

「農業に

魅せられて」

よしひろ
篠原由拓さん（堀米町）



（有）篠原ファーム友米家の由拓さんは平成28年実家の田植えを手伝った際に就農を決意し、翌年から本格的に農業を始めました。ご家族の支えもあり、不安はなかったそうです。

「日々の農作業はもちろん、研修会や周りの若い担い手との交流の中で、日々新しい発見や経験がある。」と楽しそうに話す由拓さん。現在は米麦や、ハトムギ、大豆の他に、就農と同時期に導入した冬のネギ栽培を行っています。

今後の目標を尋ねると、

「農業への負のイメージを払拭したい。丁寧に作業することを通じて農業の魅力を周囲へ伝えたい。」と、意気込みを語っていただきました。



「品質に

自信あり」

たつひこ
中里竜彦さん（戸奈良町）



会社員として肥料や農薬の販売をしていた兼業農家の竜彦さんは、担当してい

たナス農家の方々を見ているうちに自らも本格的に農業を始めたいと思ったそうです。

現在は兼業の頃からの米麦の栽培に加えて露地とハウス4棟でのナス栽培を行っています。

「ハウスでの温度管理には気を使うし、5月から7月にかけて米麦とナスの作業が重なって大変だが、高品質なナスは自慢だよ。」と語る竜彦さん。現在の目標については、「品質を維持しながら収量も増やしていきたい。今年ハウス栽培4年目だけど初心を忘れないで臨みたい。」と頼もしい言葉をいただきました。



国が支える 積立方式で安心

老後の備えとして

農業者年金

次の3つの要件を満たす方であれば、どなたでも加入できます。

- 年間60日以上 農業従事
- 国民年金1号 被保険者
- 60才未満

営農・生活に役立つ 農業総合専門誌。

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

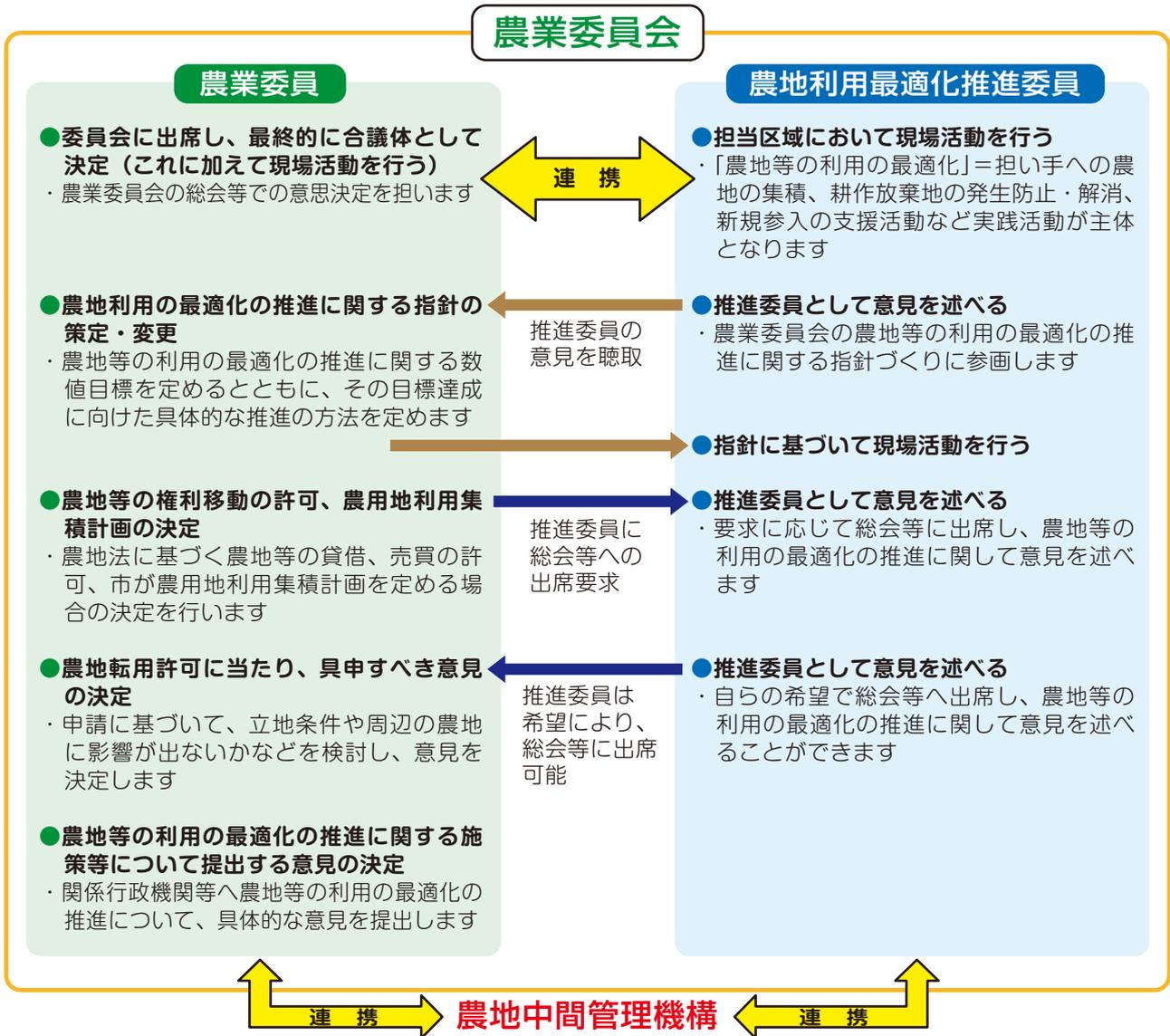
を読みましよう！

購読申し込みは
農業委員会事務局
又は農業委員・農地利用
最適化推進委員へ

～新しい農業委員会～ (H29.7.20～)

農業委員会は、農地等の利用の最適化（担い手への農地の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）の推進に積極的に取り組んでいくべきことが制度的に位置づけられました。

農業委員と農地利用最適化推進委員の連携



編集後記

新体制になって初めての農業委員会だよりとなります。発行に関しご協力いただいた関係者の皆様には、大変お世話になりました。

新しい農業委員会では、これまで以上に、遊休農地の解消や農地の集積・集約化のため活動をしてまいります。

これからも本誌を通して委員の活動や地域農業の情報を、農家の皆様にわかりやすく、親しみやすく伝えて行きたいと思っておりますので、地域の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

編集委員

編集委員長	杉山 忠
副編集委員長	森下 憲一
編集委員	遠藤 宏
	川上美由紀
小堀 和彦	立川 久恵